

平成18年度 病害虫発生予察情報

発生予報第6号（8月）

平成18年8月1日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない	
		紋枯病	平年並～やや少ない	
		白葉枯病	やや多い	
		ニカメイチュウ	少ない	
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い	
		セジロウンカ	平年並	
		トビイロウンカ	多い	
		コブノメイガ	やや多い	
		カメムシ類	多い	
		果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ
ナシ	黒斑病			平年並
	シンクイムシ類			やや多い
カキ	ハダニ類		やや少ない	
	カメムシ類		やや多い	
	うどんこ病		やや少ない	
野菜	イチゴ	カキミガ	平年並	
		カメムシ類	やや多い	
		うどんこ病	やや少ない	

中国地方1か月予報（7月29日～8月28日・広島地方气象台7月28日発表）
向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量、日照時間は平年並みの見込みです。

防除所ではいもち病、ウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。

アクセスはこちら <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生量は発病株率1.0%（平年38.8%）で、平年に比べて少ない。
- ② 7月24日～26日にかけてBLASTAMによる感染好適日が県下各地で高頻度に出現した。
- ③ 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 全域
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査における発生圃場率は37.1%（平年49.6%）、発病株率は

- 5.9%（平成10.0%）で、全般の発生量はやや少ない。
- ② 8月の気象は本病の発生にやや助長的である。
- (3) 白葉枯病
- 予報内容
- | | |
|------|-------|
| 発生地方 | 常習発生地 |
| 発生量 | やや多い |
- 予報の根拠
- ① 全般の発生量はほぼ平成並みである。
- ② 5月以降の積算降水量は平成に比べて多い。
- ③ 8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) ニカメイチュウ（第2世代）
- 予報内容
- | | |
|------|---------|
| 発生地方 | 全域 |
| 発生時期 | 平成並 |
| | （発蛾最盛期） |
| 発生量 | 少ない |
- 予報の根拠
- ① 7月下旬の巡回調査では、被害株率、発生圃場率ともに平成に比べて少ない。
- ② フェロモントラップでの雄成虫の誘殺は平成に比べて少ない。
- ③ 8月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。
- (5) ツマグロヨコバイ
- 予報内容
- | | |
|------|----------|
| 発生地方 | 全域 |
| 発生量 | 平成並～やや多い |
- 予報の根拠
- ① 予察灯での誘殺数は平成に比べて少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査では寄生虫数17.2頭/50株（平成29.2頭）、発生圃場率72.4%（同73.5%）ともに平成並みである。
- ③ 8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。
- (6) セジロウンカ
- 予報内容
- | | |
|------|-----|
| 発生地方 | 全域 |
| 発生量 | 平成並 |
- 予報の根拠
- ① 予察灯及び粘着誘殺灯での誘殺数は平成並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では寄生虫数101.2頭/50株（平成81.9頭）、発生圃場率82.8%（平成81.6%）ともに平成並みである。
- ③ 8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。
- (7) トビイロウンカ
- 予報内容
- | | |
|------|----|
| 発生地方 | 全域 |
| 発生量 | 多い |
- 予報の根拠
- ① 予察灯での誘殺数は平成に比べて多く、飛来ピークは7月18日である。
- ② 7月下旬の巡回調査では寄生虫数0.6頭/50株（平成1.8頭）、発生圃場率24.1%（平成10.1%）で平成10年に次いで多い。
- ③ 8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。
- (8) コブノメイガ
- 予報内容
- | | |
|------|---------|
| 発生地方 | 普通期栽培地帯 |
| 発生量 | やや多い |
- 予報の根拠
- ① 飛来は現在まで断続的に認められているが、主要な飛来波は7月第4半旬で、飛来量は平成に比べてやや多い。
- ② 7月下旬の巡回調査では被害株率1.9%（平成1.8%）はほぼ平成並みで、発生圃場率34.5%（同22.1%）はやや多い。
- ③ 7月飛来由来の第1世代成虫は8月第2半旬から発生し、発蛾最盛期は8月第3半旬と考えられる。
- ④ 8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

(9) 斑点米カメムシ

予報内容

発生地方 全域

発生量 多い

予報の根拠

① 7月下旬の出穂圃場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で10.5頭/20回振、調査した70%の圃場で捕獲され、発生量、発生圃場率ともに多い。(昨年同期: 5.8頭/20回・73%)

② アカスジカスミカメの予察灯(出雲市)への累積誘殺数は256頭で平年に比べて多い。(平年50.9頭、昨年97頭)

③ 8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、出雲市で平年比56.1%、益田市で平年比44.3%と少ない。

② 7月下旬のダイズ圃場調査では発生を確認していない。

③ 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査での発病葉率は19.2%で平年並みである(平年24.6%)。

② 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(安来市・出雲市)のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや多い。

② 8月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率は17.0%(平年値26.3%)とやや低く、寄生虫数も36.8頭/50葉(平年93.0頭/50葉)とやや少ない。

② 8月の気象は発生を特に助長的する要因とはならない。

(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(出雲市)のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや多い。

② 8月の気象はカメムシ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査での発病葉率は2.9%で平年よりやや少ない(平年6.0%)。

② 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ(第2世代)

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(出雲市)のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや多い。

② 7月下旬の巡回調査でカメムシの被害果を確認した。

③ 8月の気象はカメムシ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) イチゴ(苗)

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 イチゴ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では発病を認めていない。

② 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>